

授 業 科 目 の 概 要			
(国際総合科学部)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	国際総合科学総論	<p>本科目は、入学直後の新生に学部4年間で学ぶことの概要を提示し、動機付けを行うとともに、学生自身が頭の中にカリキュラム全体の見取り図を描き、自発的に学修していくことを可能にするために設定された。この目的を果たすため、1年次の第1クォーターに週2回、計15回のオムニバス形式で集中的に開講される。</p> <p>内容は、本学部4年間のカリキュラムのダイジェストであり、イントロダクションである。本科目では毎時間の小レポートと前半・後半それぞれ終了時の総合レポートで評価を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1の能力形成に寄与する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(① 福屋 利信／1回) 国際社会における芸術・文化</p> <p>(② 糸長 雅弘／1回) 科学技術リテラシーとは何か</p> <p>(④ 木村 友久／1回) 知的財産と現代社会</p> <p>(⑥ 川崎 勝／2回) イントロダクション：国際総合科学部では何をどう学ぶのか まとめ：改めて4年間で何を学ぶか</p> <p>(⑪ 堀家 敬嗣／1回) 現代日本における芸術・文化</p> <p>(⑭ 小川 仁志／1回) 現代社会の思想と文化</p> <p>(⑯ 阿部 新／1回) グローバル化時代の政治経済</p> <p>(⑳ 永井 涼子／1回) コミュニケーションとは何か</p> <p>(㉑ 星野 晋／1回) グローバル化時代の地域社会</p> <p>(㉒ クルッツ・ゲッラ・クリスチャン・フランシスコ／1回) デザイン思考と課題解決</p> <p>(㉓ 東島 仁／1回) 科学技術と倫理</p> <p>(㉔ 山本 冴里／1回) 言語と世界</p> <p>(㉖ 中尾 央／1回) 科学技術と現代社会</p> <p>(㉗ 秋谷 直矩／1回) 科学技術とコミュニケーション</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	科学技術史	<p>今日我々が自明と見なしている科学技術と社会の関係・あり方が形成されてきた史的过程を講義形式で概観する。特に、各時代・各地域に固有の思想・文化及び政治・経済的文脈に留意しつつ、17世紀に誕生した当初は社会的には取るに足らない存在であった近代科学が、社会において枢要な位置を占めにいたった過程を理解することを通じて、高校まででは別個に扱われていた「理系的思考（理科＝科学）」と「文系的思考（社会科特に歴史）」を総合的に理解する視点を獲得することを目標とする。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	科学技術哲学	<p>哲学的アプローチを用いて、改めて科学技術とは何かを講義形式で問い直す。内容は、国際的に標準的な入門書である Samir Okasha, <i>Philosophy of Science: A Very Short Introduction</i> に準拠し、「科学とは何か」「科学的推論」「科学における説明」「実在論と反実在論」「科学の変化と科学革命」「物理学・生物学・心理学における哲学的問題」「科学とその批判者」といったトピックスを順に扱うことで、科学技術への理解を深める。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	環境と人間	<p>文明がもたらした利便性によってどのような環境問題が生じてきたか、そして人類はその解決に向けてどのような方策を取っているか、また取るべきかについて学修する。特に、技術の進歩と自然環境の係わりについて焦点を当て、環境負荷に関する具体的事例を学ぶとともにその原因を把握し、解決のために私たちが何を行なうべきかを考える。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	食と生命	<p>「生命科学とバイオテクノロジーの発達」というテーマに沿って、生命現象の基礎から、細胞、遺伝子、食品化学、健康・寿命などの様々な視点からのバイオテクノロジーの基礎までを紹介し、近年における生命科学や生物工学の発展について概説する。</p> <p>一般的な目標として、人間が生きるために必要な食資源について関心を払い、生命に関して多角的な視点から考察する力を養うこととする。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	社会と医療	<p>保健・医療・医学・福祉の観点から健康問題を総合的に説明する。特に、医学部教員による専門領域を反映した講義を通して深く健康問題を捉える。また、受講生の能動的な学修を促すため、随時、小レポートを課し、保健・医療・医学・福祉の観点から総合的に考察できるようにすることに重点を置く。</p> <p>科学としての医学・保健学と実践としての保健・医療・福祉とが社会の中でどのような意義を持ち、健康についての課題が総合的にどのような捉えられているかを知り、健康問題に対処する能力や態度を身につけるとともに、その将来あるべき姿について考察する力を養う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	運動健康科学	<p>健康問題は、今や国民の最大の関心事である。健康を維持・増進するためには、運動・スポーツをどのように行えばよいのだろうか。現代生活における健康と運動の意義、特に生活習慣病と運動の関連、メンタルヘルスと運動の関連について概説する。疾病予防や健康的な生活を送るための運動方法（様式・量・時間・頻度）について解説する。また、人の発育・発達、形態や機能の変化について解説し、生涯を通じて健康を保持・増進するための方策を考える。</p> <p>なお、本科目で学修した内容は、科学技術リテラシー科目の「保険・医療・福祉」及び展開科目の「保健医療と現代国際社会」の基礎となる。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	哲学	<p>美学とは、芸術をおもな対象とする、哲学の一分野であり、その美学を哲学することをテーマとした科目である。</p> <p>本科目では、古典的ハリウッド映画（一九三〇～五〇年代のアメリカ映画）を題材に、美学的思考について実演し理解を深める。</p> <p>（古典的ハリウッド映画という）一定の題材にそくして哲学的思考を習得することを一般的な目標として設定している。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-2及び1-4の能力形成に寄与する。</p>	
	歴史学	<p>近現代における国際社会の著しい変動のなかで、特に日本の近現代史の変容ぶりも際立っている。国際社会の変動要因によって規定されてきた日本の近現代史の習熟は、国際社会の現在を理解するうえで不可欠である。本科目では、国際社会、なかでもアジア近現代史の枠組みの中で日本近現代史を鳥瞰することに主眼を置く。そこではアジア近現代史と日本近現代史を双方向的な視点からする読み解きを具体的な資料や証言などを踏まえて進めていく。最終的には、現代を生きる私たちが国境を越えて歴史と向き合うなかで、現在と未来を創造していく糧を得ていくことを目的とする。これからの国際人は、自国の歴史を縦横に語れる存在であって欲しいと切に願っている。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-2及び1-4の能力形成に寄与する。</p>	
	日本文化論	<p>日本発のグローバル人材になるためには、日本の文化を幅広く理解し、自分なりの日本観をしっかりと確立しておくことが必要である。そのため本科目では、伝統芸能からクールジャパンと呼ばれる現代的な現象まで、幅広く日本の文化について考察を加えていく。その際、視聴覚教材等を用いて予め具体的なイメージを持たせようとして、日本文化に関する評論等関連する文献を読み解いていく。これによって日本文化についての基礎を身に着けることが可能になる。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-2及び1-4の能力形成に寄与する。</p>	
	人間の発達と育成1（宗教学）	<p>日本を中心に世界各国の共同体レベルの宗教の具体的事例（儀礼や祭り等）の考察を通じて、宗教の根本課題である「生と死」の問題を明らかにし、さらにそもそも「宗教とは何か」について考究する。</p> <p>グローバル化社会で活躍するためには、仏教やイスラム教をはじめとする世界の宗教に関する基本的知識の習得や、それを通じた宗教に対する姿勢の獲得が必要と考えており、本科目において世界の宗教に纏わる問題等も含めて理解することを目標とする。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-2及び1-4の能力形成に寄与する。</p>	
	文化の継承と創造1（文化人類学）	<p>文化人類学は、「文化」を手がかりに人間の理解を深めようとする学問分野である。グローバル化する社会においては、「普遍的」とされる論理や価値観(universal)と民族又は地域特有の論理や価値観(local)との間で多くの問題が生じている。文化人類学的な視点、つまり文化を相対化する視点は、このような問題に取り組むにあたって重要な示唆を与えてくれる。本科目では具体的には親子、家族といった世界でどこでも見られる社会の構成単位を取りあげることで文化人類学的な視点を学ぶ。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-2及び1-4の能力形成に寄与する。</p>	
	人間の発達と育成2（言語学）	<p>本科目の目的は、私たちが日常使用している言語を客観的に観察することにある。特に、次の2点に焦点を当てる。</p> <p>まず、言語の様々な姿を観察することによって、私たちがどのようにしゃべっているか、聞いているか、書いているか、といった問題を意識させる。次に、言語が社会的な問題とどのような関連があるかについて考察する。最終的に、言語の表面的な仕組みだけではなく、言語の面白さ、不思議さ、豊かさ、奥深さを知ることができる。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-2及び1-4の能力形成に寄与する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	文化の継承と創造2 (表象文化論)	<p>「表象 (representation)」とは、とりわけ機械的な複製技術の媒介を前提とした20世紀以降の芸術的・文化的な事象に関わるきわめて重要な概念である。本科目では、美術や音楽、文学や建築といった従来の芸術諸ジャンルに加え、映画やテレビ、写真やマンガなど、特に現代の日本を特徴づける表現の具体例を紹介することによって、さまざまな芸術的・文化的な表象に触れる機会とし、それらに対する関心の発芽を履修者に促す。これとともに、たとえば「編集」や「引用」といった、「表象」をめぐる今日的な主題をそうした具体例のうちに論じながら、「表象」という概念の理解と、これが昨今の芸術や文化に対して提起する問題意識の共有をめざす。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-2及び1-4の能力形成に寄与する。</p>	
	政治学	<p>「政治・経済に関する基礎的な知識を修得して、社会的問題について考察し、良識ある市民として行動することができる」能力の基盤を形成するために、高校の「現代社会」や「政治・経済」で学修した内容を深め、政治の観点から現代を生きぬくため社会の課題を深く理解することを目的とする。社会的に最適解を見出すためには、政治的プロセスの理解が不可欠であり、そのための知識理解に資する基本的内容を講義形式で概観する。</p> <p>本科目は、主に学部DPの1-3の能力形成に寄与する。</p>	
	現代アジア論	<p>国際社会にあつて、流動性著しい東アジア社会の実態に歴史学や国際政治学のアプローチから、その変動要因を探求する。現在と未来における安定した国際社会の形成に、東アジアの安定は必要条件である。そこで本科目では、安定化のための方途を、長年東アジア問題に取り組んできた経験と研究をベースに展開することにより、東アジア社会とアジア全体或いは国際社会との関係性について考察する。</p> <p>本科目は、主に学部DPの1-3の能力形成に寄与する。</p>	
	経済と法1 (経済学)	<p>前半部分ではミクロ経済理論の基本的な考え方とりわけ社会的余剰と市場の失敗 (外部性、公共財等) および政府の役割、インセンティブを中心に学修する。同時に社会で起きている様々な事象を提示し、政府の役割、市場の役割等を議論し、経済学的な視点から思考する力を習得する。</p> <p>後半部分では金融システム、財政・金融政策等のマクロ経済理論について学修し、現代の経済問題への関心を高めていく。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-3の能力形成に寄与する。</p>	
	経済と法2 (経営学)	<p>経営学の基礎について学ぶ科目であり、企業の実情や事例を数多く取り入れ、会社の中でよく使われている経営学の基本概念を日常生活と結びつけてわかりやすく説明する。</p> <p>一般的な目標として、専門的な講義を理解するために必要な経営学の基礎を身に付けることを設定しており、経営学の基礎についてさまざまな事例を交えながら説明するとともに、研究成果や理論に対する理解を求めるとしている。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-3の能力形成に寄与する。</p>	
	経済と法3 (法学)	<p>法の基礎理論を学び、法の具体的な適用について理解したうえで、法体系を成す各法、憲法、行政法、刑法、社会法等について学ぶ科目である。</p> <p>一般的な目標として、学生が一般社会人として必要な法的知識や法的思考力を身に付けることを設定しており、法との関わりや、法の基本的特色について学んだ後、公法に属する各法分野の概要などの必要な基礎知識について理解を求めるとしている。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-3の能力形成に寄与する。</p>	
	社会学	<p>私たちの生活はグローバル化している一方で、「地域の重要性」が多くの場面で叫ばれ、家族機能や社会福祉サービスを補填するためにボランティア団体や多様な社会的ネットワークによる新たなコミュニティの再編が求められている。本科目では、日本の家族、地域社会がどのように変化してきているのか歴史的経緯から学び、現代の家族問題の具体例を少子高齢化社会、格差社会といった視点から考察するとともに、今後の家族のあり方、家族支援の在り方について考察する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-3の能力形成に寄与する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学技術リテラシー科目	自然科学 1	<p>観察や実験を通して自然に関する知識を蓄積し、それらを体系化し、自然の中にひそむ法則を明らかにしようとする科目である。また、現代社会を支える技術は自然科学に基づくとの考え方のもと、自然が関係するさまざまな問題について自分なりに判断するために、自然科学の基礎知識や考え方を身に付けることを目標としている。この授業では、自然科学の中でも主に数学、物理学、地球科学の3分野の基礎知識や考え方をわかりやすく講義することとしている。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	自然科学 2	<p>観察や実験を通して自然に関する知識を蓄積し、それらを体系化し、自然の中にひそむ法則を明らかにしようとする科目である。また、現代社会を支える技術は自然科学に基づくとの考え方のもと、自然が関係するさまざまな問題について自分なりに判断するために、自然科学の基礎知識や考え方を身に付けることを目標としている。この授業では、自然科学の中でも主に生物学と化学の2分野の基礎知識や考え方をわかりやすく講義することとしている。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	ロジカルシンキング入門	<p>ロジカルシンキングは、科学的・論理的に物事を考え、表現するための技法（スキル）であり、学問を行う上で必須の最も基本的な素養と位置づけられる。「ロジカルシンキング入門」は演習科目である「ロジカルシンキング演習」と並行して開講され、講義形式で、科学技術論的トピックスを具体例にとりながら「問いの決定」・「原因の特定」・「解答の決定」・「解答の表現」といった一連の思考のプロセスを学び、その上でロジックツリーを用いた分析法、ピラミッド構造による表現法、推計の仕方等のロジカルシンキングの手法を理解し、演習を行うのに必要な知識を修得する。</p> <p>本科目は、主に学部DP3の能力形成に寄与する。</p>	
	ロジカルシンキング演習	<p>「ロジカルシンキング入門」（講義）と並行して開講される演習科目であり、講義で学んだ内容を具体的なトピックスに適用し、主体的に考え、表現する訓練を行うことでスキルとしてロジカルシンキングを活用できるようになることを目的とする。具体的には、賛否両論がある科学技術に関わる諸問題（例えば、遺伝子組み換え作物や動物実験等）をトピックスとして扱い、ロジカルシンキングのみならずクリティカルシンキングの基本も同時に修得することを目指す。</p> <p>本科目は、主に学部DP3の能力形成に寄与する。</p>	
	統計学入門 I	<p>ICT社会で得られるデータで特に役立つのは統計データである。与えられた資料に適切なデータ処理を施し、必要な情報を引き出す能力は、現代人の必須のスキルの一つといえる。統計学は、経験的に得られたバラツキのあるデータから、数学的手法を用いて数値上の性質や規則性あるいは不規則性を見いだすものである。本科目は、統計学のための資料整理、確率論及び統計学で使われる確率分布に関する基本的内容を学び、それらを理解することを目的とする。</p> <p>本科目は、主に学部DP1、2及び3の能力形成に寄与する。</p>	
	統計学入門 II	<p>無作為抽出された部分（標本）から全体（母集団）の特徴や性質を推定する統計学の分野を推計統計学または推測統計学という。推計統計学では、少数の標本しか得られない現象について、その帰属する母集団の規則性を求めることができる。本科目は、「統計学入門 I」で学んだ基本的内容を踏まえ、推計統計学における母集団と標本の関係、点推定と区間推定及び仮説検定に関する基本的内容を学び、それらを理解することを目的とする。</p> <p>本科目は、主に学部DP1、2及び3の能力形成に寄与する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学技術リテラシー科目	統計学演習 I	<p>「統計学入門 I」と並行して開講される演習科目である。本演習は、Excelを用いて、「統計学入門 I」で学んだ基本的内容を具体的なデータに適用することで、統計的スキルを身につけることを目的とする。具体的には、度数分布表やヒストグラムの作成、数学的確率に関するコンピュータ実験、統計的な確率分布のグラフ作成、正規分布、t分布、カイ2乗分布、F分布等に関するコンピュータ実験などを行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1、2及び3の能力形成に寄与する。</p>	
	統計学演習 II	<p>「統計学入門 II」と並行して開講される演習科目である。本演習は、Excelを用いて、「統計学入門 II」で学んだ基本的内容を具体的なデータに適用することで、統計的スキルを身につけることを目的とする。具体的には、信頼区間と母平均の関係、母平均、母比率、母分散等の推定、統計的検定の仕組みと有意水準の意味、母平均、母比率、母分散等の検定などのコンピュータ実験を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1、2及び3の能力形成に寄与する。</p>	
	デザイン科学入門 I	<p>『デザイン思考』は、デザイン手法の1つであり、思想である。民族誌学的手法に基づくユーザの理解と反復的なプロトタイプングを土台としたイノベーションの実現を目的としている。</p> <p>そのデザインプロセスは、観察やインタビューなどの深いユーザ調査を実施し獲得したデータに基づいてコンセプトを立案したのち、様々なかたちでプロトタイプを構築する。プロトタイプをフィールドに持ち込み、ユーザテストを通じて知見を獲得し、プロトタイプを改良し、プロダクトを実装する。本科目では、これらのデザインプロセスを実際の課題を通じて体験的に習得させる。</p> <p>本科目は、学部DPの3の能力形成に寄与する。</p>	
	デザイン科学入門 II	<p>インクルーシブデザインとは、1990年代にイギリスで発祥したユーザー参加型デザインの考え方である。これはデザインによって社会的包摂を達成しようとする考え方で、社会環境や製品およびサービスなどから排除された人々を、デザインプロセスに取り込み、共に課題を発見しながらメインストリーム（商業的に主流）の解決策をデザインとして達成するアプローチである。</p> <p>本科目では、上記のデザインプロセスを実際の課題を通じて体験的に習得させる。</p> <p>本科目は、学部DPの3の能力形成に寄与する。</p>	
	デザイン科学演習 I	<p>デザイン科学入門 I と並行して開講される演習科目であり、受講生は複数のグループに分かれて演習を行う。本科目では、デザインプロセスにおける「調査」について演習を通じて学ぶこととしている。具体的には、マクロ調査手法として、インターネットおよび各種統計資料を用いた調査手法を学ぶこととしている。また、質的調査手法として、観察、インタビューなどの民族誌学的手法を学ぶこととしている。</p> <p>本科目は、学部DPの3の能力形成に寄与する。</p>	
	デザイン科学演習 II	<p>デザイン科学入門 I と並行して開講される演習科目であり、受講生は複数のグループに分かれて演習を行う。本科目では、「デザイン思考と課題解決能力」の基盤を形成するために、デザインプロセスにおける「分析」「着想」について演習を通じて学ぶこととしている。具体的には、演習 I において収集したデータを用いて、コンセプトを立案するためのデータ分析法、発想法について学ぶこととしている。また、コンセプトを深めるためのストーリーデザイン法を学ぶこととしている。</p> <p>本科目は、学部DPの3の能力形成に寄与する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学技術リテラシー科目	デザイン科学演習Ⅲ	<p>デザイン科学入門Ⅱと並行して開講される演習科目であり、受講生は複数のグループに分かれて演習を行う。本科目では、「デザイン思考と課題解決能力」の基盤を形成するために、デザインプロセスにおける「創造」について演習を通じて学ぶこととしている。具体的には、演習Ⅱで構築したコンセプトをもとに、粘土やダンボール、スチレンボードを用いたダーティプロトタイピング、コンセプトとストーリーを紹介するためのビデオプロトタイピングを学ぶこととしている。</p> <p>本科目は、学部DPの3の能力形成に寄与する。</p>	
	デザイン科学演習Ⅳ	<p>デザイン科学入門Ⅱと並行して開講される演習科目であり、受講生は複数のグループに分かれて演習を行う。本科目では、「デザイン思考と課題解決能力」の基盤を形成するために、デザインプロセスにおける「評価」について演習を通じて学ぶこととしている。具体的には、演習Ⅲにおいて構築したプロトタイプをもとに、想定ユーザを対象としたユーザスタディを通じて、プロトタイプの評価に必要なユーザの選定から、検証項目および検証方法のデザインまでを学ぶこととしている。</p> <p>本科目は、学部DPの3の能力形成に寄与する。</p>	
	科学技術と社会 (知的財産入門Ⅰ)	<p>知的財産の本質は、知識、思想、表現等が化体された情報資産であり、現代社会ではその価値が再認識されると同時に、無形であるが故の高度な運用力が求められている。科学技術・文化的資産の活用あるいは新事象に対応する最適解に基づく具体的な課題解決を行う際に、知的財産の知識と実務対応能力獲得は重要な達成要因である。</p> <p>本科目は、知的財産の全体像を説明するとともに、主に著作権法領域とこれに関連する研究者マナーの領域について、アクティブラーニングの手法も取り入れつつ初歩的な知的財産対応力形成を図ることを目的としている。</p> <p>本科目は、主に学部DP1、4-1及び4-2の能力形成に寄与する。</p>	
	知的財産入門Ⅱ	<p>知的財産入門Ⅰと同様に、科学技術・文化的資産の活用あるいは新事象に対応する最適解に基づく具体的な課題解決を行うための初歩的な知的財産対応力形成を図ることを目的とする。</p> <p>本科目では、主にものづくり系の知財法である特許法、意匠法、商標法、不正競争防止法及び種苗法を概説すると同時に、その知識とI P D LやY U P A S S（山口大学特許検索システム）等を利用して権利客体の整理分析能力形成を図ることとする。更に、デザインやプログラムのように、複数の法律が関与する知的財産の運用も扱う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1、4-1及び4-2の能力形成に寄与する。</p>	
	知的財産演習Ⅰ	<p>知的財産入門Ⅰで獲得した、著作権法と関連する研究者マナー領域の初歩的な知的財産対応力を基礎に、科学技術・文化的資産に関する簡単な課題解決演習を行う。単なる知財法知識運用にとどまらず、知的資産の経済価値あるいは社会貢献価値の最大化を視野に入れた知的財産対応力獲得を目標にする。</p> <p>テーマは、著作権（場合によっては意匠権・商標権）を念頭に、①研究論文と思想着想の関係を演習方式で検討、②キャラクターの企画から運用までの一貫した実務対応演習、③通常の出版契約演習及び④電子出版ビジネスの企画と運用演習である。</p> <p>本科目は、主に学部DP1、4-1及び4-2の能力形成に寄与する。</p>	
	知的財産演習Ⅱ	<p>知的財産入門Ⅱで獲得した、特許法、意匠法、商標法、不正競争防止法及び種苗法領域の初歩的な知的財産対応力を基礎に、科学技術に関する簡単な課題解決演習を行う。単なる知財法知識運用にとどまらず、知的資産の経済価値の最大化を視野に入れた知的財産対応力獲得を目標にする。テーマは①特定技術の注射針パテントマップ制作、②特定製品（餅の形状等）に関わる知的財産の探索、③特定会社の開発動向を特許情報等で推測する、④学生が設定した技術の開発動向を知財情報とその他の情報から推測である。</p> <p>本科目は、主に学部DP1、4-1及び4-2の能力形成に寄与する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学技術リテラシー科目	情報セキュリティ・モラル	<p>ユビキタスネットワーク社会が到来しつつある今日において、情報システムやネットワークを利用し、情報のやりとりを行うにあたり、情報セキュリティに関する自らの責任を果たすため、個々の立場に相応しい思考と行動の様式（情報モラル）を身に付け、真の情報活用能力を培う必要がある。ここで言う「真の情報活用能力」とは情報の本質を理解するとともに、情報モラルを身に付け、情報を適切かつ効果的に活用することができる能力のことである。本科目では、情報の本質、暗号化と認証、情報セキュリティ、情報モラル、知的財産（著作権法）、コンプライアンス及びリスクアセスメント等について解説する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1-1及び2-1, 4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	情報リテラシー演習	<p>情報技術の発展により社会の情報化が急速に進展する今日、「情報リテラシー」をできるだけ早い時期に身に付けておくが重要である。また、「情報リテラシー」は、本学部の教養教育から専門教育に至る授業・演習を学生が受講していく際に、情報の収集・作成・加工・伝達手段として、コンピュータを道具として利活用していく上で欠くことのできない能力である。本科目ではWindows OS上で、電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、情報倫理、文書作成、表計算及びプレゼンテーション等の演習を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP2-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	ICT演習 I	<p>現代のような情報化社会においては、多量の情報が分散しつつストックされており、それらの情報を収集し、活用する能力が求められている。そのためには、Webシステム上の検索システムやデータベース等情報検索システムの仕組みやデータ構造を理解することが不可欠である。一方、情報の活用のためには単に情報の収集だけでは不十分であり、それらの情報の解析や可視化等の加工、更に、収集情報に基づく新たな知見の構築が求められる。これらの情報技術の活用のスキルを身につけるためICT演習群が設定されている。本科目では、情報システムの仕組みと活用、情報検索及びデータベース等の演習を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP2-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	ICT演習 II	<p>ICT技術を使った人対人のコミュニケーションツール(SNS、TV会議システム、インスタントメッセージ等)について、その特徴や採用されている通信技術やセキュリティ技術等を解説する。また、演習を通じてそれらツールの使い方を修得し、各ツールの特徴や効果等を確認する。また、Webページやポスター制作、プログラミング等のデザイン演習を通じて、制作技術を修得するとともに、ユニバーサルデザイン能力、ノンバーバルコミュニケーション能力及びICT技術を活用した情報発信能力等を修得する。</p> <p>本科目は、主に学部DP2-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	物質・エネルギー・環境 I	<p>物理現象をとらえる上でエネルギーは最も重要な概念の1つである。このため、自然現象や産業応用など非常に広範な分野の科学・技術に関わる問題に登場する。また、一般には物理的な定義とは整合性を持たない意味で用いられることも多く、基本的な科学技術リテラシーにおいて、的確な意味を理解しておくことが求められる。</p> <p>本科目では、力学の基本的な内容から出発し、エネルギーの中でも最も基本となる力学的エネルギーを中心にエネルギーとはどういうものか、またどのような特徴を持っているか等を身の周りの現象と共に考える。</p> <p>本科目は、主に学部DPの1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
物質・エネルギー・環境 II	<p>身の周りで起こるマクロなスケールでのほとんどの現象（例えば、地球環境や生物活動など）は非平衡系における不可逆な過程である。このような自然現象に時間的な方向性をもたらす唯一の物理概念がエントロピーであり、エネルギーと並び自然現象を理解する上で重要な役割を担う。</p> <p>本科目では、エネルギーに関連する現象を紹介すると共に、エントロピーとは何かを理解した上で、具体的な現象を踏まえてその性質について学ぶ。また、エントロピーの概念とも密接な関係を持つ量子現象についてもふれる。</p> <p>本科目は、主に学部DPの1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学技術リテラシー科目	保健・医療・福祉Ⅰ	<p>保健・医療・福祉分野の基本的共通課題である健康とは何かについて概説する。特に健康、疾病をめぐる人の心理・行動への理解を深め、保健・医療・福祉分野における本学問の必要性和課題を考える。前半は、本分野における健康科学、行動科学、健康教育について基本事項を学修する。特に人の健康に関する行動についての理論を学ぶ。そして、後半は健康の維持・増進、QOL（生活の質）を向上するために何が重要か、どのような働きかけが必要かを学ぶ保健・医療・福祉Ⅱへつなげる応用の授業展開とする。</p> <p>本科目は、主に学部DPの1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	保健・医療・福祉Ⅱ	<p>保健・医療・福祉Ⅰと本科目の前半で学ぶ知識を基に、保健・医療・福祉分野における本学問の課題抽出と解決方法を考える力を養う。健康の維持・増進のため、またQOL（生活の質）を向上するために何が重要か、どのような行動や働きかけが必要かを考える。後半の行動変容技法については、事例検討を行い、互いの意見を尊重しながら自分の意見を課題解決に反映させていく過程を学ぶ。</p> <p>本科目は、主に学部DPの1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	生物多様性Ⅰ	<p>地球の環境変化と密接にかかわり合う生命の成り立ちや生物進化の歴史を解説し、生物環境及び生態系とは何かを論ずる。また、遺伝学及び遺伝子工学に基づく生殖とそれによって生じる突然変異やその他の形質転換の仕組みを解説し、生物個体に生じる多様性の形成メカニズムについても言及する。さらに、地球上に生息する生物の具体的な生息域や適応した特徴等の多様性の事例を解説しながら、生物の獲得した多様性とは何かを論ずる。</p> <p>本科目は、主に学部DPの1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	生物多様性Ⅱ	<p>生物多様性の源である生物同士の相互作用、生物と地球環境との相互作用等について解説する。また、生態系を構成する個体及び個体群に焦点を当てた、生態系が維持されるメカニズムについても言及し、生物多様性の三要素である遺伝的多様性、種多様性、生態系の多様性についても論じる。さらに、さまざまな理由で移入される外来生物の問題点を資源管理の観点から考察し、生物多様性条約や地球環境における生物多様性の重要性を論ずる。</p> <p>本科目は、主に学部DPの1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	バイオテクノロジーⅠ	<p>生物を形作る基本単位である細胞の仕組みを解説し、細胞分裂、エネルギー代謝、生殖等の基本的生命活動の原理を解説する。その上で、多細胞生物が獲得した高度に機能分化したシステムについても言及し、生物が備える高度な生命維持装置について論ずる。また、発酵食品や化学物質の合成等に代表される微生物の代謝を利用した伝統技術の生物科学的な原理を解説し、身近な生命現象を利用したバイオテクノロジーに関する知識を教授する。</p> <p>本科目は、主に学部DPの1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	
	バイオテクノロジーⅡ	<p>現代生物学における種々の分子生物学的、遺伝子工学的な実験手法を解説するとともに、応用利用されるDNA検査技術、遺伝子組み換え技術、バイオリアクター技術、バイオレメディエーション技術等について論ずる。また、これらの技術によって可能となった遺伝子組み換え食品や遺伝子組み換え生物の生態系破壊等の問題や遺伝子治療、再生医療とそこに生じた生命倫理問題等、バイオテクノロジーが生み出した種々の課題について考察する。</p> <p>本科目は、主に学部DPの1-1及び4-1の能力形成に寄与する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コア科目	科学技術コミュニケーション	<p>「科学技術が関与する唯一解が存在しない現代的諸課題に対して最適解を見いだす」ために、現代社会と科学技術を繋ぐ多様な科学技術コミュニケーションの存在を知り、その機能と担い手を把握する。さらにケーススタディを交えたディスカッションを通じて、現代社会が直面する諸課題を科学コミュニケーションの観点から分析して問題点と解決策を探り、専門分野間、専門家と非専門家の壁を越える作業の基本姿勢を身につける。本科目における学修を通じて、科学技術リテラシー科目における学修内容をコア・展開科目と結びつけ、統合的に理解することが可能となる。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力形成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間
	知的財産と技術経営	<p>国際的なビジネスで必要とする知財戦略を理解すると共に、基本的な実務能力の形成を目的とする。これにより、事業戦略を支える知財戦略の企画から運用までの能力を獲得し、イノベーション創出に知財面から積極的に関与する態度形成を図ることができる。内容は、①米国・EU・アジア圏の知的財産法の概要、②世界的な知的財産権獲得と運用の実態、③MPEG規格の推移を事例とする標準化戦略、④グローバルビジネスと知財戦略事例（モンサント、キヤノン、味の素等）、⑤知財の価値評価手法、⑥自動車産業の事業戦略と知財、⑦航空機産業の事業戦略と知財、⑧オープンライセンスのビジネスモデル事例、⑨ニッチ企業の事業戦略と知財等である。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力形成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間
	日本企業文化理解	<p>日本には独特ともいえる企業文化が存在する。その文化を基本に持ちつつ、様々な企業が多様な形でグローバル展開を図っている。本科目では日本企業の持つ独特の企業文化について理解を深めると同時に、多文化社会におけるビジネスネゴシエーションや異文化間の橋渡し等グローバルな視点を持ったコーディネーターの期待される役割について考察する。また留学生とともに考察や話し合いを行うことで、ビジネスネゴシエーションにつながる異文化間ネゴシエーションを実践し、その姿勢を身につけると同時に、各業界の世界的な動向、各業界における日本の位置づけを理解し、日本の企業文化を客観的に考察する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力形成に寄与する。</p>	
	ビッグデータと経営戦略	<p>経営における意思決定は「社長による鶴の一声」からデータを用いた客観かつ定量的なものにシフトするなかで、コンピュータ技術とそれを使いこなし適切に解釈できる能力の両面が現場の人々には求められている。さらに、実務の現場ではコンピュータのハードウェアとソフトウェアの発達によって手にした大量のデータを活用するための取り組みが本格化しつつある。本講義では、その中でも近年注目を集めているビッグデータと経営戦略との関係を理論、演習両面から全体像を捉えることを目的としている。さらに、現場での実践例を見ていくことで当該分野の現状と今後の方向性を考える。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力形成に寄与する。</p>	講義22時間 演習8時間
	デザインの心理学	<p>我々が感覚情報に基づいて認識している主観的世界は、実際に我々の周りに広がる客観的世界とは必ずしも一致しない。また、我々の注意力には限界があることや記憶力の曖昧さなども知られている。ヒューマン・エラーの背景として、これらのヒトの認識能力の傾向性が関与していることが考えられる。</p> <p>本科目では、感覚知覚や注意の基本的特性について学ぶ。そして、それらがどのようにヒューマン・エラーを引き起こすかを理解する。そのうえで、エラーを減らすための方略を人間の特性を考慮した組織づくりと、アフォーダンス等の環境デザインによって考えていく。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び3の能力養成に寄与する</p>	講義28時間 演習2時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	科学技術・デザイン論科目	科学技術社会論	講義16時間 演習14時間
	科学技術社会史	科学技術社会史	講義16時間 演習14時間
	科学技術倫理	科学技術倫理	
	科学技術思想	科学技術思想	講義16時間 演習14時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	科学技術・デザイン論科目  科学技術とリスクコミュニケーション	<p>科学技術の進展は、日常生活において「リスク」となる出来事ともなう場合がある。一方で、科学技術がもたらす知識は、様々な立場の人たちが「リスク」について知り、考え、討議する基盤を提供するものでもある。本科目では、以上の点を踏まえ、科学技術に関連した社会的リスクに対する様々な関係者間の情報共有・社会的合意を扱う「リスクコミュニケーション」について学ぶ。これにより、「科学技術が関与する唯一解が存在しない現代的諸課題に対して最適解を見いだすために様々な分野の人々の考えを調整する」ための基本的な能力を習得する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 木村 友久：講義・演習/計2回)</p> <p>3. リスクコミュニケーション事例検討(1)：「情報開示と知的財産管理のバランス」</p> <p>(⑮ 杉井 学：講義・演習/計8回)</p> <p>1. イントロダクション(1)：「科学技術と社会的リスクの関係」            2. イントロダクション(2)：「社会的リスクについてどうコミュニケーション(情報共有と合意形成)するか」            4. リスクコミュニケーション事例検討(2)：「遺伝子組み換え技術のリスクコミュニケーション」            5. リスクコミュニケーション事例検討(3)：「情報セキュリティにおけるリスク分析とマネジメント」</p> <p>(⑳ 中尾 央：講義・演習/計5回)</p> <p>6. 現在進行中の科学技術の社会的リスク(事例収集と構造分析ワークショップ)            7. 科学技術による社会的リスクとリスクコミュニケーション実践(ワークショップ)            8. まとめ</p>	オムニバス 講義16時間 演習14時間
	科学技術と公共哲学	<p>科学技術と社会の間の諸課題へ対処するには、国家や地方自治体政策レベル、科学技術研究レベル、市民レベルという複数レベル間での合意形成が必要となる。本科目では、人間進化からロボティクスまでの様々な具体例を通して、政策、科学技術、市民の各レベルの観点から、公共哲学の考え方を学んでいく。これにより、「科学技術が関与する唯一解が存在しない現代的諸課題に対して最適解を見いだすために様々な分野の人々の考えを調整する」ための基本的な能力を習得する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑭ 小川 仁志：講義/計5回)</p> <p>1. イントロダクション：公共哲学とは何か            2. 公共哲学という思想：ヘーゲルからサンデルまで            3. 公共哲学を実践する：哲学カフェという試み</p> <p>(⑳ 中尾 央：講義・演習/計10回)</p> <p>4. 科学技術と公共哲学(1) 社会における科学と社会のための科学            5. 科学技術と公共哲学(2) 人間進化をめぐる科学技術の公共哲学            6. 科学技術と公共哲学(3) 心をめぐる科学技術の公共哲学            7. 科学技術と公共哲学(4) ロボティクスと情報公共圏の哲学            8. 公共哲学と公共政策            9. まとめ：合意形成のための公共哲学</p>	オムニバス 講義18時間 演習12時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	科学技術・デザイン論科目 科学技術政策	<p>社会に資する科学技術を育む際の要となるのが科学技術政策である。本科目では、科学技術基本計画や科学技術基本法など、日本の科学技術政策の基本（歴史的展開と現在の状況）と国際動向を学ぶ。また、議会型・市民参加型のテクノロジーアセスメントと科学技術政策の関わりや産学官連携に関わる政策を理解し、科学技術が関与する唯一解が存在しない現代的諸課題に対する政策的対応の実態と課題を知る。本科目は、「科学技術が直面する現代的諸課題に対して、様々な分野の人々の意見を調整し、まとめあげる」作業で重視すべき事項を理解する上で極めて重要である。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間
	情報化社会論	<p>情報技術の発展は、電子カルテやマイナンバー制度、携帯電話の普及やIT化など、大きな社会的変容をもたらした。本科目では、情報化社会という概念の歴史を知り、情報化社会が人々の生活をどのように変えたのかを学ぶ。さらに、情報化が現代社会にもたらした利点と課題とを、科学技術リテラシー科目「情報セキュリティ・モラル」の内容も適宜踏まえながら、ディスカッションを通じて考察する。これらの過程を通じて、「現代社会が関与する唯一解が存在しない現代的諸課題への最適解を見つけ出す」ための基本的能力を養う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間
	国際知財戦略論	<p>国際的な知財ビジネスで必要とする深い知識と初歩的な実務スキルの修得を目的とする。本科目では、企業等における経営戦略・事業戦略上の国際的な知財戦略の考え方を説明した上で、以下の内容の講義・演習を行う。①パリ条約・TRIPS協定をはじめとする知的財産権に関する国際条約・協定、②米国・EU諸国の産業財産権法と知財訴訟の実態、③中国、ASEAN諸国等の新興国における産業財産権法と知財訴訟の実態（執行の実効性も含む）、④産業財産権の国際的なライセンス契約、⑤技術標準化の知財面からの検討（MPGの契約形態等）、⑥オープンソースライセンス契約の種類と契約書の検討等であり、契約の部分は部分的に演習で実施する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義24時間 演習6時間
	地球環境と持続可能性	<p>基盤科目「環境と人間」及び科学技術リテラシー科目「生物多様性ⅠおよびⅡ」を基礎として、地球の創生から現在までの環境変化の歴史に基づいた地球環境と生物群集との相互作用（環境作用と環境形成作用）と地球環境の維持プロセスの理解を目的とする。その上で、演習を通して化石燃料を主体とするエネルギー消費がもたらした地球環境の恒常性の低下について考察し、その影響と原因を明らかにするとともに、現在と将来のエネルギー問題等に対処できる持続可能なエネルギー調達手法や環境保全方法を提案できる能力を養う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力形成に寄与する。</p>	講義18時間 演習12時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
展開科目	科学技術・デザイン論科目	生態環境論	<p>自然や生物多様性の保護、新しい技術の導入、地域住民の生活の向上、地域の文化の維持・発展といった事柄が複雑に絡み合った、人間と自然の間で生じるいくつかの問題を取り上げる。</p> <p>具体的には、アフリカの熱帯雨林とそこに暮らす住民の生活の問題、東南アジアにおける農業、特にバナナ栽培に関わる問題などである。こうした問題に対して、講義形式で提供された情報と学生自身で収集した情報に基づき、チームで解決策又はプロジェクトを考案し発表する。</p> <p>学生が唯一解のない課題にチームで取り組むことで調整・統合能力を身につける。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間
		インクルーシブデザイン	<p>社会における課題発見と解決能力の基礎を身につけることを目的とする。特に社会的排除に対する解決策をユーザー参加型のアプローチでデザインするインクルーシブデザインの考え方と方法について学ぶ。</p> <p>授業は講義と実践的なワークショップによって行う。授業の初期で内容の概説を行い、中盤以降で、定性的なユーザーリサーチ手法の体験やデザインプロセス全体を通じたワークショップを行い、理解を深める。期末試験は行わず、主に課題とワークショップでの発表をもって評価する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び3の能力養成に寄与する。</p>	講義18時間 演習12時間
		メディア・デザイン	<p>「デザイン思考と課題解決能力」の基盤を形成するために、様々なメディアのデザインを通じて、「デザイン」行為の体験的な理解を目的とする。「デザイン」を行う場合、必ず、ユーザが存在する。ゆえに、デザインプロセスにおいては、ユーザの理解は不可欠なステップである。</p> <p>本科目では、インタビューや観察を通じてユーザを理解し、その上で、ユーザの課題を解決するメディアをデザインする。さらに、ユーザ評価を通じてデザインしたメディアの改善を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び3の能力養成に寄与する</p>	講義14時間 演習16時間
		コミュニケーションと創造的思考	<p>昨今の情報化社会の発展により、今後多くの職業がコンピュータに代替されることが予想されている。その中で、社会で生き抜くために求められる能力として、コミュニケーション能力と創造的思考、そしてそれらを賦活するモチベーションが挙げられる。</p> <p>本科目ではそれら3つのトピックが心理学においてどのように研究されてきたを概観し、各研究分野で何がどこまで明らかになっているかを理解する。それらの研究成果に基づいてデザイン思考を理解し、その獲得を目指す。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び3の能力養成に寄与する。</p>	
		ビジュアル・コミュニケーション・デザイン	<p>ビジュアル・コミュニケーション・デザインは、科学に基づいたインフォメーションを交換するプロセスを基礎とする。新世代のデザイナーには、言語を理解するとともに、デザイン活動に欠かせないコミュニケーションの基礎知識を備えて、視覚で感じる世界（ビジュアル表現のコア）だけではなく、人間社会（社会科学のコア）の分野でも活躍することのできるノウハウを学修することが求められる。本科目は、社会と文化（2つのフィードバック）を常に意識し、社会の発展と周囲環境を注目しながら、ビジュアル・コミュニケーション・デザイン活動ができる能力を獲得することを目的とする。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び3の能力養成に寄与する</p>	
		コミュニティ・デザイン	<p>大転換期にある日本社会にあって、少子高齢化や地縁・血縁の崩壊等に由来する様々な課題を乗り越え、住民の一定の満足感が保たれるようなコミュニティを再構築・実現する方法を探る。講義では、現状分析・将来予測に基づく現代日本のコミュニティの課題を共有した上で、コミュニティ・デザインのアプローチの仕方を学び、各地の地域づくりの実例にも触れる。また小グループ単位で対象地域とテーマ（例えば商店街の活性化や住民のネットワークづくり等）を決め、地域の多様な主体との連携を想定しつつ、コミュニティづくりの企画を立案する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び3の能力養成に寄与する</p>	講義16時間 演習14時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
展開科目	科学技術・デザイン論科目	科学技術論演習Ⅰ	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に「科学技術コミュニケーション（リスクコミュニケーションを含む）」の領域で、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。</p> <p>学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、テーマに応じたチューター役の教員を選定する。チューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	
		科学技術論演習Ⅱ	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に「科学技術倫理・科学技術政策」の領域で、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。</p> <p>学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、テーマに応じたチューター役の教員を選定する。チューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	
		科学技術論演習Ⅲ	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に「デザイン科学」の領域で、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。</p> <p>学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、テーマに応じたチューター役の教員を選定する。チューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	
		科学技術論演習Ⅳ	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に「知的財産」の領域で、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。</p> <p>学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、テーマに応じたチューター役の教員を選定する。チューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び3の能力養成に寄与する。</p>	
文化・社会論科目	現代日本思想論	<p>グローバル化が進展する世界において、日本思想が西洋的な価値へのオルタナティブとして注目を浴びている。実は、クールジャパンに象徴されるアニメやマンガといった日本の新しい文化にも、有史以来の日本思想が背景として横たわっている。</p> <p>そこで本科目では、古代から現代に至る日本思想を概観しつつ、それらを現代社会の諸問題に適用する可能性を探っていく。</p> <p>最終的には、国際教養としての日本思想の知識を修得することで、西洋一辺倒ではない真のグローバル人材になることを目指す。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目 文化・社会論科目	現代日本文化論	<p>「現代日本文化」とは、身体や言語をはじめ、テレビやインターネットに至るまで様々な「メディア」とおして表現され、伝達され、形成されるそれらの「イメージ」をかたちづくる営みの全体であるとともに、そうしてかたちづくられた多層的かつ複合的な「イメージ」そのものにほかならない。したがって、「現代日本文化」は、絶えず更新されつつ私たちの思考や行動の枠組みとして機能する。その具体例として、たとえば20世紀半ばの日本では、映画が文化の中心として機能し、その中核に「スター」と呼ばれる存在があった。しかしテレビの登場を皮切りに娯楽が多様化し、映画における「神話性」が希薄化したいま、諸媒体を介して流通する今日的な存在として「アイドル」が活躍している。この科目では、現代の日本文化に固有の特殊な現象である「アイドル」について、その楽曲や出演ドラマ・映画、CMや映像パッケージ、写真集や雑誌など、多彩な媒体のそれぞれにおいて象られるその「イメージ」の生成の次第を詳細に分析し、各媒体をめぐる表現の可能性を俯瞰する。そのうえで、これら「イメージ」の生成の次第と表現の可能性が総体としての「アイドル」の「存在性」をいかに管理し、またこの「存在性」がこうした管理からいかに逸脱しうるのかについて考察する。そしてこれらの過程で「イメージ」をめぐる、あるいは「イメージ」とともに思考することの困難と快樂について、履修者がつねに自覚的となることを目指す。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間
	現代日本学	<p>この授業では現代日本社会・文化への観点を広げるため、近代以降の日本文学作品（短編）、映画、漫画に触れる。近代国家形成の歴史は今日の日本社会を理解するために不可欠な要素である。近代の知識人は西洋という文化的他者との交流を通して、近代社会形成の必要性を認識した。日本社会が文化的他者と接触し、関わってきたと過程は様々な文学作品や映画に描かれている。それらの様々な文学作品を熟読・鑑賞し、日本社会・文化を多面的に考察できるスキル習得を目指す。また他者性の捉えられ方の変化にも注目することで、それがどう社会の変化と比例するかを学ぶ。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間
	近現代日本史	<p>長きにわたる鎖国の時代から開国に踏み切った近代日本の伝統や歴史から、時代の変革期を迎え、新たな国際化や近代化の過程で変容と変質を迫られる渦中にある現代日本の歴史過程について概説する。</p> <p>本科目では講義と討論を通して、国際化や近代化とは何かをテーマに、資料をベースにした歴史学への接近の仕方を確認し、歴史事実を理解・分析する力を養うことを目標とする。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	
	現代日本芸術論	<p>本科目の前半は、日本美術史、特に室町期から江戸期までの絵画史の流れを概観することによって、日本美術の特質と展開を理解することを目指す。</p> <p>こうした日本美術の伝統的な概要を把握した上で、本科目の後半においては近・現代日本美術史における言葉と美術の関係について考察し、さらに日本の近・現代文化史を象徴する「日本画」という概念の成立ちと分野の特質について、考察を展開する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	
	現代日本言語論	<p>講義では、主に日本語を対象とし、社会言語学の下位領域における基本的な問題を解説する。具体的には、言語変種、言語行動、言語生活、言語意識、言語変化及び言語計画といった問題を取り上げる。講義の部分は、基本的な知識及び研究方法論を修得することを目的とする。</p> <p>演習では、講義で取り上げた各領域において、問題・課題を設定し、それを解決するための方法論を具体的に検討していく。また、実際に言語データを収集し、分析を試みる。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目 文化・社会論科目	現代アジア文化論	<p>現在の日本経済において、アジア諸国との経済及び技術交流が最重要項目であることに疑いの余地はない。特に山口県の国際交流の中心は、地理的に近いことも相俟って、まぎれもなくアジアにある。そこで、その交流を推進していくには、アジア諸国の文化を把握しておく必要がある。この科目では、アジア諸国について、それぞれの専門家がオムニバス形式で講義する。</p> <p>そして、講義を通して修得した視座・理解力を携えて、実際のアジア社会での諸問題に立ち向かっていけるグローバル人材を養成する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(① 福屋 利信/5回) 「韓国文化について」をテーマに、近代以降の日韓の異文化交流史及び大衆文化を含めた韓国文化への知識を身に付け、「政治が越えられない壁を文化で越える!」をキーワードに、現在日韓の間に横たわる様々な問題を解決に導く。</p> <p>(④ 小川 仁志/5回) 「中国文化について」をテーマに、将来中国で活躍できる人材を育成するため、現代中国文化について儒教などの思想的背景から解説し、中国特有の思考様式を理解させる。</p> <p>(⑯ 徳久 悟/5回) 「現代アジアにおけるイノベーションとデザイン」をテーマに、急激な経済成長の背後に生じているアジアの国々の多数の経済、環境、政治上の問題を、デザイン機会と捉え、イノベーションを実現した事例を紹介し、議論を行う。</p>	オムニバス
	比較文学・文化論	<p>比較文化・比較文学の「比較」とは研究方法を示しており、様々な文化や文学を比較する、つまり、対比・対照することにより、ある文化や文学の個的特徴を鮮明に把握すると同時に、文化・文学の持つ多様性を理解し、複眼的視野を獲得することを目指す研究方法である。</p> <p>本科目では、比較文化・比較文学的研究方法を用いて、グローバルとクレオールの間で独自の視点を獲得したコスモポリタンであるラフカディオ・ハーンの人と作品について考察し、世界から見た日本と日本から見た世界についての理解を深め、多文化共生と異文化理解について学ぶことを目指す。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間
	国際哲学	<p>哲学は、批判的かつ根源的に物事の本質を探究する学問である。したがって、もともと哲学は普遍的な学問としての性格を備えており、古代ギリシアで誕生した後、西洋社会を中心に世界各地で発展し、受容されてきた。</p> <p>奇しくも現代社会では、グローバリズムという名の世界規模の問題が、いずれの国にとっても克服すべき共通の優先課題となっている。</p> <p>そこで本科目では、グローバリズムに対峙するための国際的な学問として哲学を再定義し、グローバル人材の新たなリテラシーとして修得させることを目指す。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間
	国際芸術文化論	<p>「ビートルズ東京公演の社会的意義」を解説する過程で、イギリス、アイルランド、アメリカ、日本の社会的背景と芸術文化の関連性を、国際的視野から検証し、理解することにより、多文化・異文化理解能力及びそれを踏まえた積極的行動力を発揮する際の基礎知識を養うこととしている。</p> <p>そこでこの科目では、1960年代への理解の一助として当時の映像などを併用する。そして、講義の最後には、1960年代の若者文化と現在のそれとの違いを受講者全員で討論する。</p> <p>本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。</p>	講義16時間 演習14時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	文化・社会論科目		
	国際メディア論	国際的にマスメディアの市場とマスメディア自体の特徴を分析する。歴史的視野からマスメディアの発展を解説した上、主要マスメディアの現在のメディア的・市場の特徴を分析する。そして、従来のマスメディアとインターネットのマスメディア的要素を比較しながら、これからの課題と可能性を議論する。マスメディアの持つ「利害」を確認することによって、受講者のメディア・リテラシー・レベルを高めることを目標とする。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	講義22時間 演習8時間
	広告宣伝論	現在の多メディア社会で、広告はメディア消費者にとって、欠かせない社会情報になっており、社会的影響力も大きい。本科目では、受講者が、マスメディア広告の特徴と社会的機能を受信者として、そして送信者として理解した上、積極的に情報行動の様々な場面(研究, 仕事, 私生活)で有効に利用することを目標とする。そのために授業で、広告市場と広告媒体が持つさまざまな側面を、主に社会情報コミュニケーションの視野から、歴史的、組織的、機能的に分析して、最後に受講生が自分で広告を作成する。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	講義20時間 演習10時間
	現代日本政治論	戦後日本政治の国際化・民主化は本当に実現しているのか、を主要な講義課題として設定し概説する。 敗戦を契機に新たな戦後民主化を目標として再出発した日本であるが、モノづくりの点で先進国としての地位を得たものの、国際民主主義に伍していく信頼と可能性については未だ十分には獲得していない現状にある。そうした現代日本政治が抱える課題に肉迫しつつ、これを克服する方途を徹底した議論のなかから発見していくことを目指す。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	
	環境経済論	環境経済学の基本的な考え方及び日本の公害や地球環境問題等の一連の流れについて理解することを目的として、経済学の側面から環境問題における現代的課題を中心に議論を行う。そのなかで、汚染問題については、国内外の事例を見つつ、汚染回避のための制度設計論、既に起きている汚染の責任と費用負担論を併せて議論する。また、地域社会が抱える課題として、里山保全、エネルギー、越境汚染等の実態を学び、解決策を議論する。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	講義16時間 演習14時間
	国際政治論	国際政治の枠組みや仕組み、国際的な政治課題や時事問題などを理解するための基礎的な理論やアプローチなどについて概説する。 そのなかで、国際社会における平和実現のためのアジアに関する共同体の構築に関して、その思想の充実や制度の確立などの問題設定や意識を基盤に「平和アジア」構築のための課題を積極的にとりあげ、平和実現の方途について理解を深めることを目標とする。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	
	国際経済論	貿易や資本自由化等に関する経済学の基本的な考え方を理解した上で、グローバル経済が進む中で起きている国内外の問題（食料問題、地球環境問題、資源・エネルギー問題、労働問題等）がなぜ問題なのかを理解する。その上で議論すべき課題を設定し、学術的な考え方及び各種政策やEU等の国家間の取り組みを見ながら、我々は何をすべきか、何を選択すべきかを議論する。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	講義16時間 演習14時間
知的財産法	知的財産法全般に対する知識と運用術の修得を目的とする。知的財産法は公私行政法の混合法として集大成されており、社会で役立つスキル獲得のためにはこれら全領域を見通す法解釈能力が必要である。ここでは、特許法、実用新案法、意匠法、商標法、不正競争防止法、著作権法、民法（パブリシティの権利を中心に）等の法律知識と解釈論を扱うと共に、部分的に訴訟実務あるいは訴訟戦略についての演習も実施する。具体的には、各知財権の権利範囲解釈、権利の管理、ノウハウの保護、ライセンス契約、訴状の作成、証拠の確保等の内容を扱う。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	講義22時間 演習8時間	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	文化・社会論科目 経営組織論	経営組織に関する講義を行う。組織には、企業などの公式的組織に対して、同期入社など成員間の自然発生的なつながりである非公式組織も同時に存在する。公式的組織と非公式的組織が混在する中で、組織内の情報交換が行われている。本科目では、組織構造や組織形態ごとの特徴などについて理解を深める。本科目の到達目標は、経営組織に関する理論の基礎枠組みを学び、修得した思考方法をもって、現実の企業経営を整理、体系化ができるようになることである。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	
	保健医療と現代国際社会	人間の健康を現代社会や国際社会の中で把握し、保健医療の見地からそれらの歴史の変遷と文化的多様性を理解することを目標としている。特に人口の高齢化、科学技術の高度化、社会の情報や国際化が進む中、現代社会が抱える保健医療や健康の課題について認識を深め、問題点を抽出して分析し、適切な対応や将来実現すべき方向を探索する等の問題解決能力を養う。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力形成に寄与する。	講義16時間 演習14時間
	文化・社会論演習Ⅰ	これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に「現代日本思想・文化」の領域で、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。 学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、テーマに応じたテューター役の教員を選定する。テューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	
	文化・社会論演習Ⅱ	これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に「現代日本政治・経済」の領域で、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。 学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、承認した場合、テーマに応じたテューター役の教員を選定する。テューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	
	文化・社会論演習Ⅲ	これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に「国際文化・思想」の領域で、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。 学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、承認した場合、テーマに応じたテューター役の教員を選定する。テューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	
	文化・社会論演習Ⅳ	これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に「国際政治・経済」の領域で、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。 学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、承認した場合、テーマに応じたテューター役の教員を選定する。テューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。 本科目は、主に学部DP1及び4の能力養成に寄与する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	英語コミュニケーション科目 TOEIC準備	TOEICテスト(DP2-1)の入門である。TOEICテスト未経験者および、TOEICのスコアが400点以下の者を対象とする。TOEICはPart1からPart 4のリスニング問題、Part 5から Part 7のリーディング問題で構成されている。本科目では各PARTの攻略方法を学ぶことを主眼とする。学修を通して、英語の基礎的能力の習得を目指す。本科目の終了時にTOEICを受験し、結果は評価の基礎とする。 本科目は、学部DP2-3の能力養成に寄与する。	
	TOEIC Basic Study	TOEIC準備とTOEIC受験の成果をうけ、さらなる発展を目指す。本科目は2部構成を持ち、週に2回行われる。1部ではTOEICテストの各PARTの問題練習を行いながら、英語の基礎能力の伸展を目指す。2部では、基本的文法・できるだけ多くの語彙（TOEIC準備と併せて新しく1000語を加える）・発音・速読法などを学ぶ。本科目の終了時にTOEICを受験し、結果は評価の基礎とする。 本科目は、学部DP2-3の能力養成に寄与する。	
	Basic Speaking	コミュニケーション入門科目としてのSpeakingは「道具」としての英語の＜使い方を知る＞部門の一つにあたる。スピーキングでいちばん大切なのは、いかに臆さずに自己を発信するかである。本科目では、その基本を扱う。臆さずに自己を発信できるのは、自分のこと、自分にまつわることである。本科目では、身近なことを英語で表現する力を学修者に身に付けさせ、一定の自信をつけさせる。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Basic Listening	コミュニケーション入門科目としてのListeningは「道具」としての英語の＜使い方を知る＞部門の一つにあたる。本科目では、自分にまつわること、自分の身近なことに対して聴き取る力を養成する。まず、相手のことをよく聴いて相手を知ることが人間関係を深める上で最も重要なことであり、相手のこと、相手にまつわることを聴き取る。まずは、全部聴き取れなくても、大雑把にトピックを把握できればよい。聴く量をこなす工夫をする。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Basic Writing	コミュニケーション入門科目としてのWritingは「道具」としての英語の＜使い方を知る＞部門の一つにあたる。本科目では、和文英訳としてのライティングではなく、自己表現、自己発信のために英語を書くことである（和文英訳としてのライティングは翻訳論にゆずる）。当初はSpeakingと同様、自分のこと、自分にまつわることを出発点としてそれを英語で書いて発信できるように指導する。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Basic Reading	コミュニケーション入門科目としてのReadingは「道具」としての英語の＜使い方を知る＞部門の一つに当たる。現代に必要なリーディングは読みを通じた情報収集力のことを言う。一定時間にいかに多くを読み、どれだけを理解するかにある。つまり、多読能力と文章理解力とを兼ね備えることが真のリーディングと定義する。そこでは和訳は不要であり、必要なときには、読みの理解の深さと同じ深さで母語による説明ができるのである。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	TOEFL Study 1	IELTS, TOEFL, ケンブリッジ英検(DP2-1)の入門。TOEICスコアが400点以上で、英語圏大学への交換留学や英語プログラムのあるヨーロッパ圏やアジア圏への留学志望者を対象とする。留学するためには英語運用能力を証明するIELTSかTOEFLかケンブリッジ英検を受験することが必要である。本科目ではIELTSを中心にTOEFLやケンブリッジ英検の受験対策として、試験の出題形式とその対処方法を学ぶ。合わせて、英語4技能の基礎習得を目指す。留学希望大学の要求スコアに到達することを目標とする。この科目終了後はIELTS, TOEFL, ケンブリッジ英検のいずれかを受験する。評価は受験結果も含む。 本科目は、学部DP2-3の能力養成に寄与する。	
	Speaking 1	卑近なことを発信しながら、伝える喜び等、英語で自分のことが言えることに快感を覚え、もっとこう言えば良かった等、自己評価が混じる程度にまで引き上げる。一方、同じ卑近なことでも、自分のいる文化、社会、科学、科学技術について、実践的な発信力を持った発信内容を組み立て、それを発信することを目指す。グループセッションの度合いが増す。学修者の積極的なperformanceに任せられるくらいのレベルに到達することを目指す。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Listening 1	聴くことが全部わからなくても、また、理解の程度の差こそあれ、聞き取った話題の提示ができるレベルに到達することを目指す。発信されたもののトピック(話題)は何か、そのトピックを支えるディテールは何か、結論は何か、こうしたことをその人の聴く力に合わせて聞き取り、グループやクラスでの活動を通して、それらを提示し、お互いで確認し合いながら、自分の聞き取れなかったところを補いながら、リスニング力を高めるように指導する。使用する素材は、150-200WPM(Words per Minute)で発話されるノーマルスピードの英語である 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Writing 1	本科目ではエッセイ・ライティングの前段階であるパラグラフ・ライティングを学ぶ。パラグラフとは何かを学び、様々なジャンルの作文を書く。トピックセンテンスの書き方や段落の構成を理解して、論理的な構成をもった作文が書けることを目標とする。ライティング技術の向上とともに、人に伝える「何か」について、各人の考察が深まることを目指し、適宜、リーディング・リスニング・スピーキング練習も行い。 本科目は、学部DP2-3の能力養成に寄与する。	
	Reading 1	本科目では様々なジャンルの文章を読むことによって、基礎的読解力を養成する。リーディング能力はリスニング能力向上のための基礎的能力であることを考慮し、この2つの技能を組み合わせることで学修し、速読と聴解のスキル向上を図る。Reading 1, 2で培う「速読」力を用いながら、自分のこと、自分にまつわることを、提示された材料から情報収集するために読む。本科目では、学修者に最も身近な話題における問題発見をリーディング練習と共に行う。 本科目は、学部DP2-3の能力養成に寄与する。	
	Speaking 2	「あなたの所属する学部を紹介して下さい。」「武者社会について説明して下さい。」「山口の観光資源について話して下さい。」と言ったような、ある程度まとまった卑近な内容に取り組んで発信させる。そのとき、間違いがなく信頼できる情報を発信し、それに対する質問にも答えることができるレベル＝自分が英語を使ってある程度まとまりのあることを話すことに臆さないレベルを目指す。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	英語コミュニケーション科目	Listening 2	Listening 1 を更に発展させた科目である。Authentic materials (例えばラジオ放送, テレビ放送, 映画等) に依拠する素材を求め, そこからさまざまな形態の発信を聴いて, リスニング力を高めることを目指す。そうした素材を聴き取るために, トピック, ディテール, 結論等の論展開の仕方等, 聴き方のコツを指導する。クラス内での演習を多用して, お互いが確認しあい (励まし合って), できるだけ学修者の自力で内容理解へ持っていく。 本科目は, 主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。
	Writing 2	自分のこと, 自分が関わることを, 発信用途を峻別して英語で書く訓練をする。例えば, e-mail, 手紙, レポート等を英語で書く。それらを受信した場合の返信の英語の書き方にも及ぶ。可能な限り, グループ活動を利用する。こうしたことに付随しながら, 和英辞典, 英英辞典, 類語辞典(thesaurus)の正しく, 有効な使い方を学ぶ。また, 内容によっては, 外部からの素材(インターネット等)が必要なため, それらの素材をどう使うかも含めて指導する。 本科目は, 主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Reading 2	テキストを精読しながら, これまで学んだ文法や作文能力の定着を図る。英語という文字データを正確に把握し, 自己の意見を(母語でよい)伝える術を習得する。また, テキストに表された様々な文化や現象について, 興味を持ち視野を広げることも目指す。 本科目は, 学部DP2-3の能力養成に寄与する。	
	TOEIC Study 1	TOEIC準備, TOEIC Basic Study とは異なり, TOEICスコア600に到るには, どのような学修をしたらよいかを2つの観点から学ぶ。一つは, 学修者の弱いとするPARTの英語の習熟を目指す。もう一つは, 文法・語彙・速読の観点から, 学修者のニーズに答えながら弱いとするところを集中的に補いを付けるとともに, テストへの対処法をさらに学ぶこととする。 本科目は, 主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	TOEIC Study 2	TOEIC Study 1 とは異なり, できる学修者は, TOEICスコア700以上も射程に入れながら, スコア600に到達しない学修者は, そこに到るにはどのような学修をしたらよいかをそれぞれ学ぶ。スコア500を超えた学修者には, TOEIC SW Testsの指導を行う。SWの特徴は, 用意された解答がないことである。すべて学修者自身の判断に基づいて語彙, 構文の選択をすることとしており, そうしたことへの対応を指導する。 本科目は, 主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	TOEFL Study 2	TOEFL Study 1 をさらに展開する。学修者は交換留学したい英語圏の大学を念頭に置き, 目標を明らかにした上で, 自覚的な学修態勢に入るように指導する。目標を抛り所として, 一度受験したTOEFLで学修者自身が弱いとするところの強化を図る。そのために, 学修者のニーズをくみ上げて授業は展開するように仕組まれる。期間が終了したら, TOEFLを受験する。 本科目は, 主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	TOEFL Study 3	TOEFL Study 2 をさらに展開する。留学前に必要な能力だけでなく, 学部卒業後, 大学院在籍中に留学(又は大学院に留学進学)した際に必要な能力までを想定した科目である。本科目では, Academic Englishとして, 口頭, 筆記, 読書等, さまざまな表現手段を用いて, アカデミズムに入りやすいように, Advanced Courseとしての機能を持たせる。本科目の終了時にTOEFLを受験する。 本科目は, 主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	英語コミュニケーション科目 TOEIC Study 3	1年間留学し、帰国後の英語力で対応するTOEIC Studyである。客観的な文書が読め、自分に関することについては十全に聞き取ることができる、TOEICスコア730を目指す。TOEICテストの出題、出題形式、その対処の仕方にはすでに慣れているので、TOEIC Study 5以降は、目標とするスコアへ到達するために、いかに広く英語学修を行うかの指導がなされる。スコア600に到達しない学修者は、基礎学力が十全に展開されていないものと見て指導をする。TOEIC SW Testsはスコア500を超える、LR Testsよりも実践的である。その実践性に重きを置き、できるだけLRからSWに切り替えることを指導する。 本科目は、学部DP2-3の能力養成に寄与する。	
	TOEIC Study 4	1年間留学し、外国語使用経験が豊富になった学修者の受講を想定した科目であり、TOEICスコア700を超えるための方策を主に扱う科目である。テスト以外に広い英語学修を要求される。語彙獲得、速読力増大のために多読の指導などを行う。また、実際に広い英語学修の中で学修者のニーズに対して学修者が何を行うかに目配りをしながら指導する。SW Testsの指導も行う。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	TOEIC Study 5	原則として、TOEIC Study 4を踏襲し、ニーズに耳を傾けながら展開、拡大を行う。TOEICテストでは、読むこともspeed readingによる理解が求められるので、本格的な速読指導を行う。また、listeningにおいても、speedを前提としたlisteningの指導をする。学修者には、峻厳なTOEICスコア700の壁を超えるような学修を提示する。このあたりから、TOEICランクA(860)を目指すことを意識させる指導もする。LRの目標値が上がるごとにSW Testsの有効性が高まることを指導する。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	TOEIC Study 6	原則として、TOEIC Study 5を踏襲し、ニーズに耳を傾けながら展開、拡大を行う。TOEICランクA(860)を目指すことを意識させる指導もする。また、SW Testsの大幅な展開ができるように指導する。LRと違いSWは、自分の思考と表現にすべてゆだねられる場合が多い。4年次にもなり、他の英語の科目では、道具としての英語が徹底して教育され、自己発信、自己表現の重要性を認識しているはずである。その力量を試すのが、どの程度、自己の英語が<切れる>かをじかに試すSW Testsが断然、有効である。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	TOEIC Study 7	原則として、TOEIC Study 6の展開を行う。Advanced TOEIC Studyとしての本科目を展開する。様々なリソースを用いながら指導を行う。指導の核心は、TOEICスコア860から900を超えるように工夫される。積極的にSW Testsを受験して、それをLR Testsのスコアに換算するように指導する。SW Testsで自律的言語使用を指導する。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	TOEIC Study 8	原則として、TOEIC Study 7の展開を行う。Advanced TOEIC Studyとしての本科目を展開する。TOEICテストを時間内に終えるためには、150WPMのリーディング力が必要と言われる中、200WPM付近に上げる訓練を行う。リスニングでは200WPMを速いと思わなくなるように指導する。同様に、SW Testsにも履修者はすっかり習熟するように指導する。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	実践コミュニケーション科目 言語学習の理論と実践Ⅰ	第二言語の習得は、個人や社会にとってどのような意味があるかということを中心に講義する。全8週のうちオリエンテーション（第1週）及び振り返り・試験（第8週）を除いた6週を3部に分け、それぞれの内容を「言語学習／教育／習得にかけられているもの」「言語的多様性の促進と管理」「言語学習の歴史：方法の論理性・妥当性と自分のあり方」とする。主たる目的は学生達に言語の社会性について意識させ、多様な言語を尊重する態度を育むことである。また、様々な言語学習法を伝えることで、学生達が、自分に合った方法を見つけられるよう支援する。本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。	
	言語学習の理論と実践Ⅱ	言語をうまく学んでいくための具体的な方略について講義する。全8週のうちオリエンテーション（第1週）及び振り返り・試験（第8週）を除いた6週を2週ずつに分け、それぞれの内容を「推測能力を鍛える：文法の学びは演繹か帰納か」、「網をはりめぐらせる：語彙の学習」、「自分自身の言語学習をプランニングする」とする。主たる目的は、学生達に言語を意識的かつ自律的に学んでいく力を身につけさせることであり、講義中心の授業ではあるが、各回30分程度、具合的な体験の時間ももうける。本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。	
	コミュニケーション概論	コミュニケーションの基礎について学ぶ。バーバル／ノンバーバルコミュニケーション、対人コミュニケーション、ファシリテーター／コーディネーターコミュニケーション、異文化コミュニケーション等について実例を参照しながら学習する中で、思想・文化をコミュニケーションと関連付けて理解し、多文化理解能力、コミュニケーション能力、自己省察能力、共働力の基礎知識を修得する。その後の多文化コミュニケーションセミナーや留学生との交流、海外留学での実践を経てコミュニケーション能力と共働力を身につけるための基礎知識を学ぶ。本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。	
	中国語Ⅰ	中国で生活する際に必要な最低限の中国語のコミュニケーション能力を修得する。当該科目では、中国語の発音とアクセントおよび日常生活で使用する単語等について学習し、入門期に必要な中国語運用能力の基礎を養成する。中国語は発音とアクセントに特徴ある言葉で、発音練習を中心に簡単な会話練習を行う。また、日常会話を用いた会話練習を行うことで、日常生活でしようする単語も学習する。本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。	
	中国語Ⅱ	中国語Ⅰで修得した発音とアクセントをより習熟させるとともに、語彙力を鍛え、中国語の基本的な表現を修得するために必要な表現・文型を学習し、ことばの運用能力の向上を図る。文法は表現・文型の学習を積み重ねることで法則を修得する。会話練習におけるバリエーションも増やすことで日常生活におけるコミュニケーション能力を高める。あわせて中国文化、中国事情の理解に努める。本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	実践コミュニケーション科目 韓国語 I	韓国で生活する際に必要な最低限の韓国語のコミュニケーション能力を習得する。韓国語の文字と発音を中心にしながら、基本的なあいさつの表現、初歩的な構文を学ぶ。まずは文字と発音の正確な習得と、発音の規則、初歩的な文法（動詞、形容詞）を習得し、日常でよく使われるフレーズを用いて練習することで簡単な会話ができるようにする。 本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。	
	韓国語 II	韓国語 I で修得した基礎会話能力を、より習熟するよう発音・会話を中心に学ぶ。また、会話能力や語彙力を高めるために幅広いシチュエーションでの会話練習を行う。文法は過去形、固有名詞、代名詞を主に学習する。また、ネットを使った韓国社会の疑似体験を行う。 本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。	
	Presentation 1	Presentationは「道具」としての英語で「モノを作る」部門の一つにあたる。本科目では、「モノ」はプレゼンテーションで扱う問題（内容）になる。英語は、これまでに、「使い方を知る」として学んできた4技能（スキル）を総合して区別なく必要な箇所で用いる。プレゼンテーションのために問題発掘がある。それにどう対処して解決へ向かうかも、理路整然としなければならない過程として重要である。問題発掘から解決に到るまでをプレゼンテーションの仕方を学修しながら、英語でグループ発表する。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	多文化コミュニケーションセミナー	日本人学生と留学生によるグループ活動を通して、主にコミュニケーション能力と国際的な共働力を身につける。 既に「コミュニケーション概論」で身につけた基本的なコミュニケーション知識や、「言語学習の理論と実践 I・II」で学んだ言語運用の方略、英語コミュニケーション科目で身につけた英語力、「宗教学」「哲学」等で学んだ思想・文化に関する知識・理解を、留学生とのグループ活動を通して実践し、知識の活用能力（多文化理解能力、コミュニケーション能力、自己省察能力、共働力）を身につけ、多文化の中でどのように共働していくのかを実践しながら学ぶ。 本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。	
	Academic Writing	コミュニケーション科目としての本科目は「道具」としての英語の「モノを作る」部門の一つにあたる。高度な専門知識を必要とする仕事においては、学術的な語彙、構文の使用は必須であり、それをもとに文献作成が行われる。学術的文献執筆には、一通りのマナー（様式）があり、そのマナーは、学術英語を書くスキルと共に身に付けておかなければならない。世界への発信のためには、こうしたことを身体の一部のようにしておく必要がある。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Translation	日常では、翻訳と呼ばれる厳密な言語移行は行わないものである。しかし、文書によっては、多くの人間に理解が届かないものがあり（とりわけ、専門分野等）、翻訳をやることによって、より多くの人からの状況把握や認知がなされる。翻訳は単純にものを読んで大意を取ったり、和訳したりするものではなく、それなりの理論と実践の仕方がある。本科目では、翻訳の理論と実践の仕方を指導する。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	実践コミュニケーション科目 Interpretation	通訳は、翻訳と同様、語学が達者であれば成立する業務ではない。通訳には、逐次通訳（大意を伝えることが多い）と同時通訳（逐一内容が提示される）があるが、どちらも頻繁に実践され、多くの人の状況把握や認知に寄与している。通訳の実践にも理論があり、技術（スキル）がある。本科目では、通訳の理論と実践の仕方を指導する。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	デザイン英語	一般的には外国語をマスターし、流暢な外国語が話せるようになるのに何年もかかる。本科目では、通常の英語の授業とは異なるアプローチを採用し、デザインの分野において英語圏の人々と交流する際に、知っている英単語を用いて自己表現することができるようになるための基礎的なスキルを扱う。さらに、国際デザイン学会や国際的なプロジェクトに参加する際に必要となる、英語を理解するスキル、英語で発表するスキル、また自信を持ってうまく自己表現するスキルをそれぞれ扱うこととする。本科目では、上記のようなスキルを身につけることを目的とする。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Comprehensive English of Science and Technology 1	「道具」としての英語で<モノを作る>部門の一つにあたる。本科目では、自分と世界を相対化し、自分と世界との関わりの中で自分が問題とすべき点は何か、それはどこにあるかを、英語の基本的4スキルを総合的に駆使して見出し、そして、積極的に世界（科学技術、情報技術）に関わる。その点において、「展開科目」と深い関わりを持つ。このレベルでは、英語そのものを学ぶのではなく、自分の関心の高い領域を英語を用いて学ぶこととしている。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Comprehensive English of Science and Technology 2	ある材料を読みながら、世界にある問題を発見・発掘するために、授業では、グループを編成して英語で議論する。各人、問題のありかは異なるであろうが、グループはその差異を認め、グループのchairpersonは全体の議論を活性化しながら、まとめて行く。まとまった内容は、グループのpresenterが代表してクラスへプレゼンテーションを行う。その後、Q&Aセッションを設け、各人は、全体の議論を認識しながら、自己の問題を深めるために、自己の問題に対して、授業後、レポートを書くこととする。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Comprehensive English of Science and Technology 3	ある材料を読みながら、世界にある科学技術に関する問題を発見・発掘して、授業では、グループを編成して議論し、問題点を一つにまとめる。焦点は問題設定にあるのではなく、それをどうやって解決へ向かわせるかの議論にある。各グループは問題解決へ向けての工程を議論する。グループのchairpersonは積極的な議論の展開を図る。まとまった内容はクラスへのプレゼンテーションによって公表する。Presenterは質問を誘発するような発表を工夫する。授業が終わったら、各自で、問題解決の糸口・工程をレポートにする。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Comprehensive English of Culture and Society 1	「道具」としての英語で<モノを作る>部門の一つに当たる。本科目では、自分と世界を相対化し、自分と世界との関わりの中で自分が問題とすべき点は何か、それはどこにあるかを、英語の基本的4スキルを総合的に駆使して見出し、そして、積極的に世界（グローバル社会、地域社会及び文化）に関わる。その点において、「展開科目」と深い関わりを持つ。このレベルでは、英語そのものを学ぶのではなく、自分の関心の高い領域を英語を用いて学べることとしている。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	実践コミュニケーション科目 Comprehensive English of Culture and Society 2	ある材料を読みながら、世界にある文化・社会に関する問題を発見・発掘するために、授業では、グループを編成して英語で議論する。各人、問題のありかは異なるであろうが、グループはその差異を認め、グループのchairpersonは全体の議論を活性化しながら、まとめて行く。まとまった内容は、グループのpresenterが代表してクラスへプレゼンテーションを行う。その後、Q&Aセッションを設け、各人は、全体の議論を認識しながら、自己の問題を深めるために、自己の問題に対して、授業後、レポートを書くこととする。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Comprehensive English of Culture and Society 3	ある材料を読みながら、世界にある文化・社会に関する問題を発見・発掘して、授業では、グループを編成して議論し、問題点を一つにまとめる。焦点は問題設定にあるのではなく、それをどうやって解決へ向かわしめるかの議論にある。 各グループは問題解決へ向けての工程を議論する。グループのchairpersonは積極的な議論の展開を図る。まとまった内容はクラスへのプレゼンテーションによって公表する。Presenterは質問を誘発するような発表を工夫する。授業が終わったら、各自で、問題解決の糸口・工程をレポートにする。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Comprehensive English of Science and Technology 4	科学技術に関する問題点を発見・発掘できるような読みの材料をグループごとにグループ構成員が提示する。それによって、問題発見から解決までのできるだけ工程をグループ討議で議論する。グループのpresenterはクラスに、まず、材料の概略を説明して、議論した問題解決への道をプレゼンテーションする。ここでは、Q&Aセッションを充実させる。すなわち、クラス全体の討論へ輪を広げていく。授業が終わったら、各自が、発見された問題を自己の問題として、どのように解決するか考察するレポートを書く。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Comprehensive English of Culture and Society 4	文化・社会に関する問題点を発見・発掘できるような読みの材料をグループごとにグループ構成員が提示する。それによって、問題発見から解決までのできるだけ工程をグループ討議で議論する。グループのpresenterはクラスに、まず、材料の概略を説明して、議論した問題解決への道をプレゼンテーションする。ここでは、Q&Aセッションを充実させる。すなわち、クラス全体の討論へ輪を広げていく。授業が終わったら、各自が、発見された問題を自己の問題として、どのように解決するか考察するレポートを書く。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	Presentation 2	「道具」としての英語で<モノを作る>部門の一つにあたる。自分と世界との関わりの中で、自分で設定あるいは発掘した課題にまつわるリサーチで得られたものすべてを包括して英語で発表する。したがって、Comprehensive Englishと「課題解決科目」が融合し、自分の問題に向かって一点に絞られ、すべてが総合された科目となる。同時にTOEICスコア730以上の英語の流暢さの反映した発表となる。発表に関してはPresentation 1でやり方の基本は身に付ける。 本科目は、主に学部DP2-2及び2-3の能力養成に寄与する。	
	グローバル・コミュニケーション演習 I	これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、異なる文化・社会を背景とする人々とのコミュニケーションを通じて得られる知識・経験を基に英語によるディスカッションを行い、その知識・経験を深化させること目的として、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。 学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、テーマに応じたテューター役の教員を選定する。テューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。 本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニケーション科目	実践コミュニケーション科目 グローバル・コミュニケーション演習Ⅱ	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、異なる文化・社会を背景とする人々とのコミュニケーションを通じて得られる知識・経験を基にフィールドワークを行い、その知識・経験を深化させること目的として、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。</p> <p>学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、テーマに応じたチューター役の教員を選定する。チューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。</p>	
	グローバル・コミュニケーション演習Ⅲ	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、異なる文化・社会を背景とする人々とのコミュニケーションを通じて得られた知識・経験について英文によるレポートを作成すること目的として、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。</p> <p>学生が自ら具体的学修テーマを設定して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマを審査し、テーマに応じたチューター役の教員を選定する。チューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら学修の進展を見守り、レポートの評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。</p>	
	グローバル・コミュニケーション演習Ⅳ	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、異なる文化・社会を背景とする人々とのコミュニケーションを通じて得られた知識・経験を英語でプレゼンテーションすることを目的として、学生のアクティブ・ラーニングを主体とした個別テュートリアル方式の演習を行う。</p> <p>学生が自ら具体的学修テーマを設定し、学修プランを作成して教務委員会に提出する。教務委員会はそのテーマ及びプランを審査し、テーマに応じたチューター役の教員を選定する。チューターとなった教員は、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP2の能力養成に寄与する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題解決科目	基礎セミナー	<p>図書館やインターネットを通じた情報収集の仕方、その情報に基づいてレポートを書く又はプレゼンテーションをする方法の基本を学ぶ。本科目の目標は、集めた情報を適切に活用して自分の考え・意見を作り、それを論理的かつ分かりやすく文章もしくは口頭で説明できるようになることである。本学部の多くの科目でレポートやプレゼンテーションは必須となる。本科目はガイダンス等を除いて教員1名に対して学生5～7名という少人数学修の形式で行う。</p> <p>なお、レポート及びプレゼンテーションのテーマについては、それぞれの担当教員が自身の専門分野に関連する課題等を設定する。</p> <p>本科目は、主に学部DP2及び3の能力養成に寄与する。</p>	
	山口と世界	<p>山口の魅力を県外の人に知ってもらうことを目的に、取材に基づく山口紹介のリーフレットとスライドを作成する。小グループ単位で予備的な情報収集をした上で、テーマを決め、企画し、インタビュー取材を行い、得られた情報を編集し、リーフレットとスライドにまとめあげる。最後に報告会を行い、互いに評価し合う。この経験を通して、対象に関わり、発見し、テーマを設定し、形にし、他者とシェアし、振り返るという、あらゆる研究・開発・創造の基本となるサイクルの全体を理解し、修得する。またコミュニケーションやグループ・ワークの手法を学ぶ。</p> <p>本科目は、主に学部DP2及び3の能力養成に寄与する。</p>	
	知の広場（キャリア・デザインⅠ）	<p>大学での学問と社会のかかわり、グローバルな社会での働き方のほか、大学生活を有意義に過ごすための考え方と方法論を学ぶ。また、学生が学内外の講師の職業・学問分野の概要を知ることにより、本学で学ぶ意義を理解し、本学の学生としての誇りと自覚を培う。この授業を契機として、充実した大学生活を送るため、卒業までに達成すべき自らの目標を立てるとともに、大学生活の中で、一つでも多くのことを『発見し、はぐくみ、かたちにする』ことが望まれる。</p> <p>本科目は、主に学部DP2及び3の能力養成に寄与する。</p>	
	課題解決能力演習	<p>ディベート、プランニング、PBL (Problem Based Learning) を実践的に学ぶ。本科目では学生4名程度からなるグループ4つからなるクラスを編成し、専門分野の異なる複数の教員で担当する。ディベートではグループごとに賛成もしくは反対の立場をとり、グループでその立場を主張するために考え・意見をまとめ、プレゼンテーションで他グループにそれらを論理的に説明する。その後、それぞれのグループが相手グループの主張に対する反論を行い、相手グループの説得を試みる。プランニングでは教員が与えるテーマについてグループごとに情報を集め、グループでプランを考え、それを発表する。そして他のグループや教員と疑問点などについて質疑応答を行う。PBLでは教員が与える唯一解が存在しない課題について、グループごとに情報を収集し、解決策をまとめ、発表する。そして他のグループや教員とその解決策の有効性や実現可能性について質疑応答する。各教員はそれぞれの専門分野の立場に加えて、協力しながら専門分野を融合した視点から課題を考えるよう促すことで、学生は学際的な視点を身につける。</p> <p>なお、テーマについては、それぞれの担当教員が自身の専門分野に関連する課題等を設定する。</p> <p>この授業はコミュニケーション能力、共働力、深層ニーズ把握力、課題設定能力、着想練り上げ能力、着想具現化能力、着想検証能力の基本的な部分を学ぶものであり、その先の課題解決科目や展開科目でその能力をさらに深く磨いていくことになる。</p> <p>本科目は、学部DP2, 3の能力養成に寄与する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題解決科目	社会調査法 I	<p>社会調査法 I では、主に参与観察、聞き取り、エスノグラフィー等から構成される質的アプローチを用いた社会調査の視点と方法を学ぶ。質的アプローチは、ある人びとや出来事を理解するために、調査者が実際の現場で見たこと、経験したこと、聞いたことを要約・編集し、その場に居合わせなかった他の研究者や一般の人たちとシェアできるようまとめあげる過程である。観察やインタビューの方法、エスノグラフィーの書き方等について、グループワークを通して実践的に学ぶとともに、調査にともなう認識論や倫理上の課題についても考える。また、フィールドワークに先立って、事前の情報収集のやり方と必要性についても学ぶ。事前の情報収集としては地図（GISの活用に基づいた空間認識・地図理解の基礎的な知識・技能を含む）、公的機関の統計情報、出版物、先行研究などが含まれる。</p> <p>本科目は、主に学部DP3の能力養成に寄与する。</p>	
	社会調査法 II	<p>社会調査における量的なデータの収集方法と、そのデータの分析方法を学ぶ。現場における真のニーズをつかむためには、既存のデータに加えて自らがデータを収集し、分析する能力が必要となることが多い。本科目では多人数に対して行うアンケート調査を想定し、アンケートの作成、アンケート対象者の設定、アンケート結果の分析、調査における倫理について学ぶ。また、分析においては統計学入門・演習で学んだ統計学的手法を用いる。質的なデータを収集・分析する社会調査法 I とともに、地域理解演習 I ・ II やその他の授業での情報の収集と分析の基礎となる科目である。</p> <p>本科目は、主に学部DP3の能力養成に寄与する。</p>	
	地域理解・連携演習 I	<p>山口について、県外・国外の人に知ってもらうことを目的に、小グループ単位で、スライド及び発表原稿を作成し、報告会を行う。1年次に履修した「山口と世界」を発展させた内容であり、その後「社会調査法 I 」及び「社会調査法 II 」で修得した情報の収集（GISなどを活用した地理的情報、公的な統計等）・フィールドワークでの調査・調査結果の分析・企画・編集の技術を駆使した取り組みが求められる。最後の2回の授業では、留学先の町でのフィールドワークを想定し、対象地域の予備的な情報収集（GISなどを活用した地理的情報、公的機関の統計等）及び分析をした上で、調査計画を立て、インタビューフローの作成等を行う。留学先でのフィールドワークの成果は、帰国後の地域理解・連携演習 II で活用することになる。</p> <p>本科目は、主に学部DP3及び4の能力養成に寄与する。</p>	
	地域理解・連携演習 II	<p>留学先の町と山口県内の町との交流の可能性を探る。留学前に受講した地域理解・連携演習 I と連動しており、前半の授業では、留学先の町で実施したフィールド・ワークの結果を整理し、エスノグラフィー（簡易版）にまとめ上げると共に、発表用のスライドを作成する。それらをグループ内で評価し合い修正した上で、代表を選び、報告会において発表する。後半の授業では、グループで山口県内の市町村と留学先の町をいくつか選び、その町同士の交流事業を企画し、企画書及び報告スライドを作成し、報告会で発表する。</p> <p>本科目は、主に学部DP3及び4の能力養成に寄与する。</p>	
	キャリア教育 (キャリア・デザイン II)	<p>学生自身が将来のキャリアを考えて行う最初の活動が就職活動であり、大学院への進学を含む進路選択活動である。本科目は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とするものであり、経済・社会、企業、そして自己理解のための理論および現実を学ぶことで、将来のキャリア選択や、現実問題として直面する就職活動に役立つ知識と方法論の習得をめざす。</p> <p>授業は講義形式で行うが、一人一人が自分の問題としてキャリアを考えることができるように、宿題レポートを多数とり入れた実践的な講義を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP3及び4の能力養成に寄与する。</p>	
	グローバル・インターンシップ演習 I	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に国際的舞台でのインターンシップを行う。</p> <p>学生自ら設定した具体的学修プランに対し、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP4の能力養成に寄与する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
課題解決科目	グローバル・インターンシップ演習Ⅱ	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に国際的舞台上でのインターンシップを行う。</p> <p>「グローバル・インターンシップ演習Ⅰ」を履修した学生が、更に自ら設定した具体的学修プランに対し、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP4の能力養成に寄与する。</p>	
	グローバル・インターンシップ演習Ⅲ	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に国際的舞台上でのインターンシップを行う。</p> <p>「グローバル・インターンシップ演習Ⅱ」を履修した学生が、更に自ら設定した具体的学修プランに対し、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP4の能力養成に寄与する。</p>	
	グローバル・インターンシップ演習Ⅳ	<p>これまでの科目で修得してきた知識と技能を基盤に、特に国際的舞台上でのインターンシップを行う。</p> <p>「グローバル・インターンシップ演習Ⅲ」を履修した学生が、更に自ら設定した具体的学修プランに対し、適宜アドバイスしながら、学修プランの進展を見守り、学修プランが完結した際に評価と単位の認定を行う。</p> <p>本科目は、主に学部DP4の能力養成に寄与する。</p>	
	プロジェクト型課題解決研究	<p>3年次までに学んできたことの総仕上げとして、実社会に存在する問題をテーマに取り上げ、自らプロジェクトを企画し、実践することで、課題の解決を目指す科目である。これは、通常の学部における卒業研究・卒業論文に替わるもので、5名程度の学生グループが各々のプロジェクトに挑み遂行する。</p> <p>プロジェクトの具体的な活動は、プログラム・コースの場合は連携する企業等と協議を重ね、企画を進めていく。オリジナル・コースの場合には連携する企業・地域・団体等を探し、協力関係を築き、プロジェクトの企画・実践を目指す。基本的に具体的活動は学生が主体的にグループ単位で行うが、原則として週に1回程度、担当教員がファシリテーターとしてグループ活動に参加して進捗状況及び今後の活動等の確認を行い、状況を把握するとともに適切なアドバイスを行う。プロジェクトの企画・実践に様々な分野の専門家が必要になることが想定され、担当教員はアドバイザーとして必要に応じて他の専門分野の教員や学外の専門家を学生に紹介し、その結果得られる知識や情報の融合をゼミなどで促す。</p> <p>本科目を通じて、課題解決のためにどのようにチームをつくれればいいのか、グローバル化時代のチームづくりはどうあるべきか、くらしの現場を知ることがいかに重要であるのかといったことを学び、現状で自分に何ができて、何が欠けているのかを認識することで、今後の自らのキャリアデザインに、確固とした方向性を見出す。</p> <p>なお、グループが設定するテーマの内容に応じて、関連する専門分野の教員が担当する。</p> <p>本科目は、主に学部DPの4の能力形成に寄与する。</p>	